



【 卒業証書授与式で見た井波っ子のよさ 】

- 3月17日（木）、46名の卒業生が井波小学校を巣立ちました。一人一人が、6年間の教育課程を終えた証である卒業証書を堂々と手にしました。
- 私は、学校長として、個人として、6年生の姿を大変うれしく思いました。それは、6年生の授業のときに伝えた三つのことが、実行されていたからでした。一つ目は、**呼名の後の「返事」**です。目の前にいる私は、**卒業生の気迫**をすごく感じました。二つ目は、**(ステージ上からフロアにいる方に向かって) 立つ凛々しい姿**です。この二つについては、保護者の方にも伝わったのではないかと思います。
- そして、三つ目は、**お礼の前後の「視線」**です。これも、私は卒業生の目の前に立っていて、**目をつないでいる、またつなごうとしている子供たち**だと実感しました。**気持ちが伝わった**のです。また、来賓の中のある方が、「井波小学校の卒業生は、視線を合わせて礼をしています。すばらしいです。」と言っておられました。
- この三つについては、私は、**6年生との約束**だと思っていました。それを**見事に実行した6年生**。6年生に「よくやった！」と称えてあげたいと思います。実際に伝える場がなくて残念ですが、この文書を見ることを期待しています。
- また、在校生の態度も立派でした。直接式に参加した5年生の態度、リモートで参加した1～4年生の態度、来賓の方からも「在校生もきちんとした態度で参加していましたね。」と、お褒めの言葉をいただきました。
- また、私個人の思いとして、30年前の平成3年度、井波小学校6年4組を担当していた時のことも思い出しました。「少年時代」の曲に合わせて入場したこと、式の途中で体調が悪くなった卒業生を私が体育館の外へ連れて行ったこと等、記憶が蘇っています。**30年経った今、井波小学校長として、このすばらしい卒業生に卒業証書を渡すことに感慨を覚えている次第です。**
- 多くの方々に支えられた卒業証書授与式、本当にありがとうございました。

